

# みんなの健康ラジオ

『食物アレルギー II』  
(2020年3月26日放送)

横浜市皮膚科医会

山川皮ふ科

山川有子

# ナッツアレルギー

ナッツアレルギーの中で、最も多いのはピーナッツアレルギーである。

ピーナッツを摂取後、すぐにアナフィラキシーなどの即時型アレルギーを起こす。

小児のピーナッツアレルギーは増加傾向。

乳幼児の場合、自然寛解は約20%である。

ピーナッツアレルギーを持っている児では他のナッツアレルギーを持っている可能性は25~50%。

ナッツ類のアミノ酸配列の相同性はクルミ科に属するクルミとペカンナッツ、ウルシ科に属するカシューナッツとピスタチオに相同性をしめす。

# 大豆アレルギー

大豆アレルギーは、乳児期では食物アレルギーに関与するアトピー性皮膚炎型での発症が多い。

幼児期以降は、即時型アレルギー反応や口腔アレルギー症状が多い。

呼吸困難、意識消失、血圧低下などアナフィラキシーを起こすことがある。

乳幼児発症の食物アレルギーの中では、最も耐性を獲得しやすい。

味噌、醤油は醸造工程でタンパク質がアミノ酸まで分解されるため大豆アレルギーであっても摂取できることが多い。

豆乳アレルギーは、カバノキ科（シラカンバ、ハンノキなど）の花粉の感作により、豆乳に対する口腔アレルギー症候群を発症する。

# 納豆アレルギー

納豆を摂取後2時間以内は無症状だが、半日ほどでアレルギー症状が出現。

症状は、蕁麻疹、呼吸困難、意識消失、血圧低下などアナフィラキシーを起こすことが多い。

納豆のアレルギー検査は陽性。大豆では陰性になることが多い。

アレルゲンは、ポリガンマグルタミン酸 (PGA)。

PGAは食品の保存料、増粘量、旨味成分として使用健康塩、調味料（例えば冷やし中華のたれ）、スポーツ飲料、缶コーヒー、ジャスミンティーなどにも含まれる

クラゲが毒針を刺すときに、触角細胞中にPGAが産生されるため、クラゲに刺されたことを契機に感作されやすい。

# 果物アレルギー

## 小児発症の場合

経腸管感作後（果物を食べているうちに次第にアレルギーになり）

皮膚、呼吸器、消化器症状、アナフィラキシーといった即時型アレルギー症状を起こすことが多い。

# 果物アレルギー

乳児期以降の場合（特に学童以降、成人）  
に多くみられるのは、

口腔内アレルギー症候群・  
花粉-食物アレルギー症候群

果物や野菜を摂取した15分以内に、口の中のかゆみ、ぴりぴりした刺激感、咽喉頭の閉そく感、蕁麻疹、喘息、アナフィラキシーを起こす。

これは、シラカンバやハンノキ花粉などの抗原で感作された人が、摂取した果物や野菜の抗原と交叉反応を起こして、果物や野菜を摂取した直後に即時型アレルギーを起こすものである。